



平成22年度 業務実績の概要



平成23年7月

独立行政法人国立精神・神経医療研究センターの概要

○世界に一つだけの精神・神経センター

世界中に精神あるいは神経研究所は数多くあるがNCNPは精神と神経の研究と診療を一体的に行っている「世界にひとつだけのセンター」



○当センターの使命

病院と研究所が一体となり、精神疾患、神経疾患、筋疾患及び発達障害の克服を目指した研究開発を行い、その成果をもとに高度先駆的医療を提供するとともに、全国への普及を図る

設立: 平成22年4月1日

役職員数(平成23年4月1日現在) :

常勤役員3名、常勤職員658名

主な組織: 神経研究所、精神保健研究所、
トランスレーショナル・メディカルセンター、病院

運営病床数: 468床

運営状況(平成22年度実績):

- ・総収益 120.3億円、総収支率 99.5%
- ・経常収益 117.0億円、経常収支率 99.8%
- ・1日平均入院患者数 376.9人
- ・1日平均外来患者数 450.7人
- ・外部資金獲得額 25.7億円 ※競争的研究資金含む

設置根拠: 高度専門医療に関する研究等を行う独立行政法人に関する法律(平成20年法律第93号)

センターの行う業務:

- ① 精神・神経疾患等に係る医療に関し、調査、研究及び技術の開発を行うこと
- ② ①に掲げる業務に密接に関連する医療を提供すること
- ③ 精神保健に関し、調査及び研究を行うこと
- ④ 精神・神経疾患等に係る医療及び精神保健に関し、技術者の研修を行うこと
- ⑤ ①から④に掲げる業務に係る成果の普及及び政策の提言を行うこと
- ⑥ ①から⑤に掲げる業務に附随する業務を行うこと

(独)国立精神・神経医療研究センターの行う事業

- ・病院と研究所が一体となり、精神疾患、神経疾患、筋疾患及び発達障害の克服を目指した研究開発を行い、
- ・その成果をもとに高度先駆的医療を提供するとともに、全国への普及を図る

研究・開発

【現状と課題】

- ①高度先駆的医療の開発及び標準医療の確立のため、臨床を志向したすぐれた研究・開発成果を継続的に生み出していくことが必要
- ②臨床研究を病院内で高い倫理性、透明性を持って円滑に実施
- ③精神・神経疾患等の特性を踏まえた戦略的かつ重点的な研究・開発の推進

医療の提供

【現状と課題】

- ①国内外の知見を集約し、高度先駆的医療の提供及び最新の科学的根拠に基づいた医療の提供を行う。
- ②患者・家族に必要な説明を行い、情報の共有化に努めることにより、患者との信頼関係を構築する。
- ③医療観察法対象者に対して、退院後の地域生活への安全で円滑な移行を支援する質の高い医療の提供を行う。
- ④重症心身障害児(者)に対して、心身の発達を促す医療及び様々な合併症を予防する総合的医療等、質の高い医療の提供を行う。

人材育成 情報発信

【現状と課題】

- ①センターが国内外の有為な人材の育成拠点となるよう、リーダーとして活躍できる人材の育成を行うとともに、モデル的な研修及び講習の実施及び普及に努める。
- ②センター及び都道府県における中核的な医療機関等間のネットワークを構築する。
- ③医療従事者や患者・家族が信頼のおける情報を分かりやすく入手できるよう、国民向け及び医療機関向けの情報提供を行う。

適切な業務運営のための組織・予算

【現状と課題】

- ①効率的な業務運営体制とするため、弾力的な組織の再編及び構築を行う。
- ②総人件費改革への取組
- ③効率的な運営を図るため、収支改善の実施及び電子化の推進
- ④法令遵守(コンプライアンス)等内部統制を適切に構築し、契約については、競争性及び透明性が十分確保される方法により実施
- ⑤能力・実績本位の人材登用などの確立に努め、優秀な人材を持続的に確保する。



NCNP 平成22年度業務実績①

■研究・開発

(1) 臨床を志向した研究・開発の推進【S】

- ・臨床研究等の共同実施を行うための専門疾病センター（多発性硬化症、筋疾患、てんかん、パーキンソン病・運動障害疾患、地域精神科モデル医療）を運営
- ・センター内での共同研究88件（21' 42件）
- ・TMCにおいてデータマネジャー及び生物統計解析室長の専門職を配置
- ・バイオリソース登録検体数898件（21' 779件）
- ・諸規程を整備し、成果有体物提供契約を25件締結
- ・治験実施症例数156例（21' 176例）
- ・臨床研究簡易相談43件（21' 24件）実施、TMCデータセンター機能、臨床研究業務手順書整備
- ・職務発明委員会における審査10件（21' 9件）

(2) 病院における研究・開発の推進【S】

- ・筋ジストロフィー患者登録については、遺伝子解析を活用した全国規模の臨床DBを構築し（累計登録692件）、国際学会で発表するとともに海外とも連携
- ・CRCを常時10名配置し、FPIまでの平均期間は平均48.6日（21' 115.4日）
- ・研究倫理に関する研修受講記録制度、TMC臨床研究研修制度など整備

(3) 戦略的・重点的な研究・開発の推進【S】

原著論文・総説発表件数 648件（21' 620件）

(1) 疾病に着目した研究

- ・ヒト筋レポジトリの中から、新規の先天性筋ジストロフィーを発見するなど発症機序や病態の解明につながる研究を実施
- ・筋ジストロフィーなどの希少疾患患者登録を推進
- ・薬物依存、摂食障害や睡眠障害に対するCBTの実践研究などを実施
- ・筋ジストロフィーの筋壊死の抑制に関する研究などを実施

(2) 均てん化に着目した研究

- ・精神科医療における行動制限の最適化のためのeCODOシステム作製
- ・研究成果、公開講座等の積極的な情報発信や精神疾患に関するメディアカンファレンスの開催（計5回）

■医療の提供

(1) 高度先駆的医療、標準化に資する医療の提供【S】

- ・うつ症状の鑑別診断補助のため光トポ検査259件（21' 129件）
- ・統合失調症の対象患者12人に認知機能改善プログラム実施

(3) 医療政策の一環としての医療の提供【S】

① 医療観察法対象者への医療の提供

- ・多職種チームによる治療計画作成や治療評価会議を全例に対して毎週実施するとともに、対象者の家族会を10回開催

② 重症心身障害児（者）への医療の提供

- ・在宅支援病床を4床確保し、延べ115人受け入れ

(2) 患者の視点に立った良質かつ安心な医療の提供【A】

- ・遺伝カウンセリング室を設置し、専属の認定遺伝カウンセラーを配置して相談体制強化
- ・CBTを推進するため、CBTセンター設立準備室で研修活動等実施
- ・医療観察法病棟において多職種で構成されるCPA会議182件実施
- ・登録医療機関制度（125施設登録）を開始し、地域連携リストの作成に着手
- ・紹介率65.0%（21' 58.3%）、逆紹介率49.6%（21' 43.0%）
- ・転倒・転落事故発生件数341件（21' 425件）、転倒転落率0.25%（21' 0.29%）
- ・eCODOシステムを導入し、精神疾患患者の行動制限を改善



NCNP 平成22年度業務実績②

■人材育成

人材育成に関する事項【S】

- ・実務者・指導者研修又は臨床研究実践講座を15回開催
- ・各種モデル的研修・講習を67回開催し、センター外の医療従事者等の受講者数は1,664人

■情報発信

医療の均てん化と情報の収集・発信の発信に関する事項【A】

- ・ジャーナルクラブ等を開催し、国際的な研究の進捗状況をセンター内外へ発信
- ・ホームページ(トップページ)アクセス件数176.7万件

■業務運営の効率化

効率的な業務運営体制【S】

- ・副院長複数制の導入、経営企画部門の設置、ガバナンスを強化するため企画戦略室長や監査室を設置
- ・企画戦略室員に様々な職種の職員を任命し、運営改善等に取り組んだ

効率化による収支改善・電子化の推進【S】

- ・経常収支率99.8%(計画97.4%)
- ・一般管理費の節減▲15.4%(平成21年度比)
- ・医業未収金比率0.05%(21' 0.05%)
- ・医薬品等の6NC共同入札等により材料費率17.4%(21' 17.7%)
- ・センターグループウェア及び電子カルテ導入等による業務効率化
- ・月次決算の実施及び病院経営会議の立ち上げ

■政策提言、その他医療政策の推進

国への政策提言に関する事項、その他我が国の医療政策の推進等に関する事項【S】

- ・自殺対策推進会議(内閣府)の座長や再生医療の実現化プロジェクト(文部科学省)のプログラムディレクターとして参画するなど、種々の委員会等に積極的に協力
- ・東日本大震災に対し、メンタル情報サイトを開設して、心のケアに関する支援を行うとともに専門家の派遣等を実施
- ・海外からの研修生及び研究者を17名(21' 11名)受け入れ

法令遵守等内部統制の適切な構築【S】

- ・監査室を設置し、内部監査計画書に基づいた監査を実施
- ・コンプライアンス室を設置し、顧問弁護士を室長に選任
- ・契約監視委員会を開催し、随意契約等について点検・見直しを実施

予算、収支計画及び資金計画等【S】

- ・寄附や受託研究等の外部資金獲得額318百万円
- ・厚労科研費をはじめとした競争的研究資金獲得額2,255百万円
- ・長期借入金当期償還額53百万円、期末残高3,079百万円

その他主務省令で定める業務運営に関する事項【A】

- ・業績評価制度を導入し、その評価結果を賞与・昇給に反映させる
- ・医師、看護師の確保対策及び優秀な人材を公募により採用(14名)
- ・企画戦略室において、センター運営の問題点や改善策など職員の意見等を聴取できるよう職員提案窓口を設置



独法初年度の重点的取組と成果(要約)

1. 運営・経営の基本

- 経営の改善・安定化への努力とミッション達成に向けた基盤強化のための先行投資、自由度を活かしたセンターの近代化の推進⇒経常収支の大幅改善、優秀な人材の登用・確保、組織の拡充、施設・機器整備、情報システム整備

2. 研究・医療

- 研究所と病院が一体となった施設横断的研究推進体制の構築⇒専門疾病センターの開設、TMCの創設、精神・神経医療研究開発費の活用
- 研究推進基盤の整備と研究領域・手法の拡大⇒TMCの創設、IBIC・CBTセンターの創設準備、治験(臨床研究)推進体制の強化、図書館機能の拡充
- 画期的・先駆的研究・医療の推進⇒筋ジストロフィー国際協同治験実施、視神経脊髄炎発症メカニズム解明、PET-HATの開発、パーキンソン病姿勢異常の治療法開発等
- 病院の近代化⇒新病棟移転、病院機能評価受審準備、チーム医療・機能分担の推進、高度先駆的医療へのシフト

3. 人材

- 優秀な人材の確保と育成⇒人事システムの弾力化、連携大学院の推進、若手研究者育成システム創設

4. 情報発信

- 情報発信・広報活動の戦略的展開⇒広報戦略の構築・広報専門家採用、ホームページの刷新、メディアカンファレンス定期開催

5. 組織運営

- 独法業務遂行のための業務体制・コンプライアンスの確立⇒初年度の予想を大きく上回る進捗・成果を達成
- 職員のモチベーション向上と参加意識の醸成⇒情報共有・提案発信システム構築、適切な業績評価システム導入、業務フローの見直し・効率化、顕彰制度の創設



トランスレーショナル・メディカルセンター(TMC)

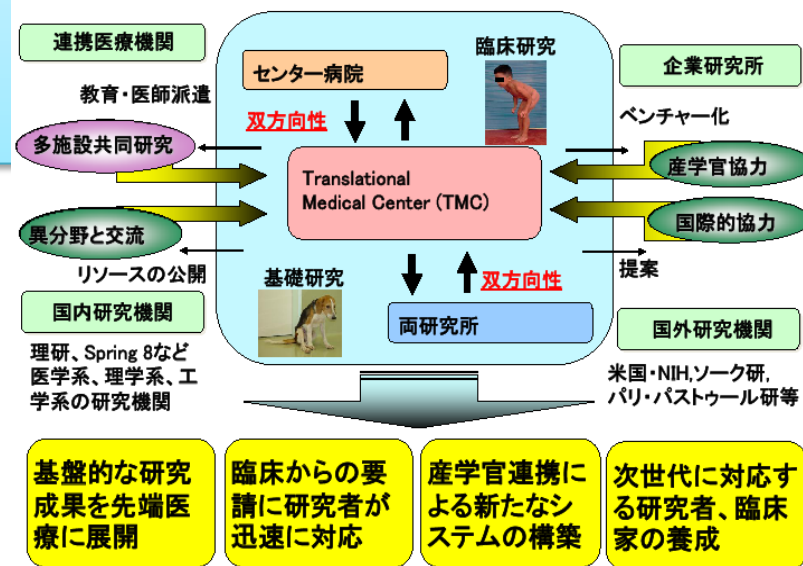
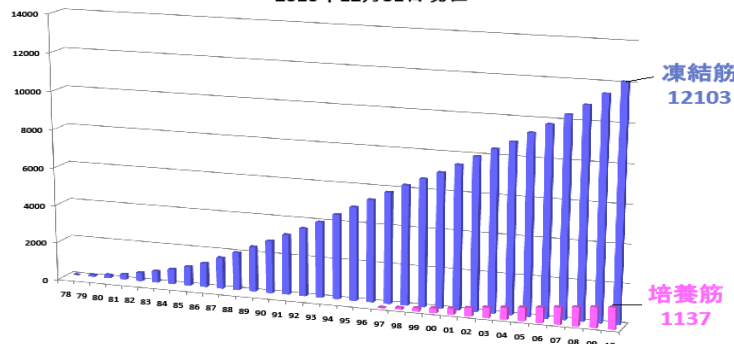
研究シーズの臨床への応用、臨床ニーズの研究への適応等、研究所と病院を有機的に繋ぐ組織であり、専門人材育成、質の高い臨床研究・治験推進のための支援等を担う。

1. 人材育成
2. 臨床研究支援体制の強化
3. 臨床研究の倫理性確保のための体制整備
4. 臨床研究の効率的実施のための体制整備
5. 企業との協力関係等の構築
6. バイオリソースの収集保存と利用促進
7. 国際共同での医師主導治験の推進
8. 橋渡し研究の推進（臨床開発への移行支援）



■若手育成カンファレンス

筋レポジトリ蓄積検体数
2010年12月31日現在



治験管理室(臨床研究含む)

1. 実施症例数(治験)

平成21年度:128例 ※

平成22年度:156例 (**21.9 %増加**)

※ 承認申請後の継続投与試験を除く

2. 実施件数(治験・臨床研究)

平成21年度:138件(治験:56件、臨床研究:82件)

平成22年度:154件(治験:49件、臨床研究:105件)

11.6%増加

3. 効率性の向上(治験)

治験申請から最初の症例登録(First Patient In)までの期間(目標値:100日以内):

平均48.6日(最小値27日、最大値90日、中央値42日)

4. 国際共同治験への積極的な取り組み(治験)

- 平成21年度:16.1 %

- 平成22年度:18.4 %

5. 実施症例数増加のための取り組み(治験)

- 電子カルテを用いたスクリーニング

実施症例数増加のための取り組み

-電子カルテを用いた被験者候補を
抽出するためのスクリーニング-

1次スクリーニング

基準を設定し抽出(粗集計)

2次スクリーニング

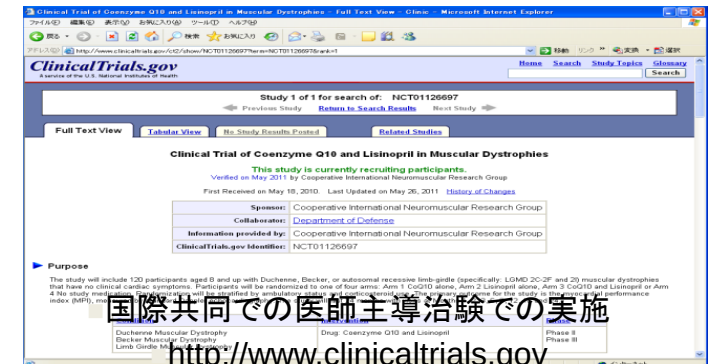
選択基準・除外基準への
該当性を評価

3次スクリーニング

適格性について担当医と
協議

被験者候補の集積

定期的な適格性の再評価



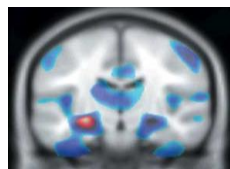
国際共同での医師主導治験での実施
<http://www.clinicaltrials.gov>



脳病態統合イメージングセンター(IBIC)の設立準備

高度画像診断や非侵襲脳機能計測に要する、最先端の研究機器等を用いた統合的画像研究を推進し、精神疾患、神経疾患、発達障害、筋疾患の病態解明や診断治療技術の開発を担う

I 画像診断治療研究部

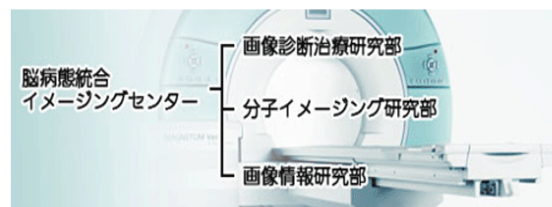


MRI
SPECT
MEG

- ・研究 イメージング法
シーケンス
診断法・技術
機能的治療法

- ・研究者の育成
画像カンファレンス
トレーニングコース

IBIC(=Integrative Brain Imaging Center)
脳病態統合イメージングセンター



多次元的なデータベースを構築

脳バンク・遺伝子バンク等の
バイオリソース

III 画像情報研究部

- ・研究 解析手法
多施設共同研究
イメージング標準化

- ・研究者の育成

- ・画像解析・診断の受注

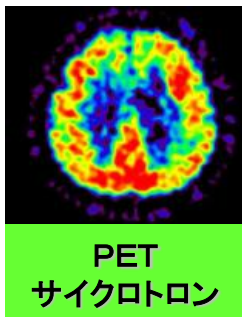
- ・画像を用いた治験

- ・精神・神経疾患、希少疾患の
脳画像の蓄積



多施設共同利用

II 分子イメージング研究部



PET
サイクロترون

- ・研究 病態メカニズム
核医学診断法・技
術機器・薬剤

- ・創薬 マイクロドージング



認知行動療法センター(CBTセンター)の設立準備

認知療法・認知行動療法の研修(人材育成)・調査・研究(技法開発)・臨床支援等を通して、わが国における精神保健・医療・福祉の質の向上を担う

講習会

臨床研修

臨床研究

臨床家は、CBT治療の実技訓練を受ける

指導者は、指導者指導コースへの参加

研究者は、複合的・多面的な研究の実践



CBT専門治療技能

講習会とスーパービジョン(CTAS,CTS等で評価)

国際認定組織Academy of Cognitive Therapy との連携

一般臨床、地域・職域・教育活動のためのCBT技能

教育法訓練

臨床研究

CBT臨床研究への参加、CBT臨床研究の方法論の習得

→ 患者レジストリーシステム、RCT、脳画像、遺伝子との連携

臨床家

指導者

研究者

対象

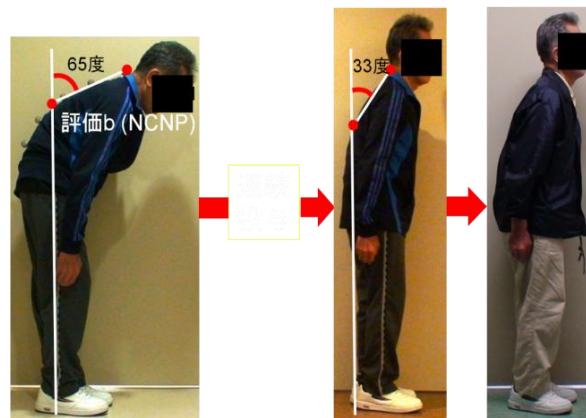
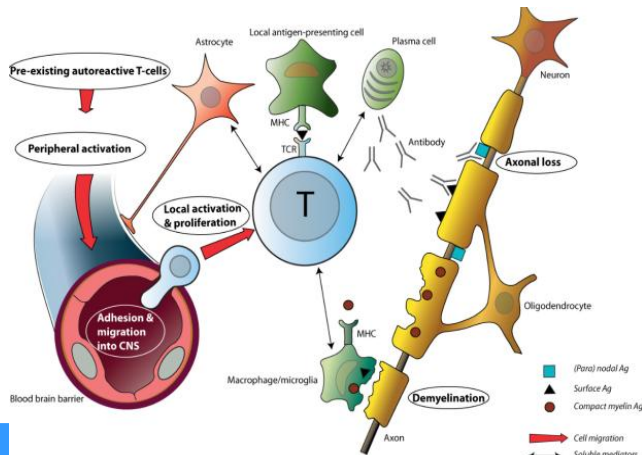
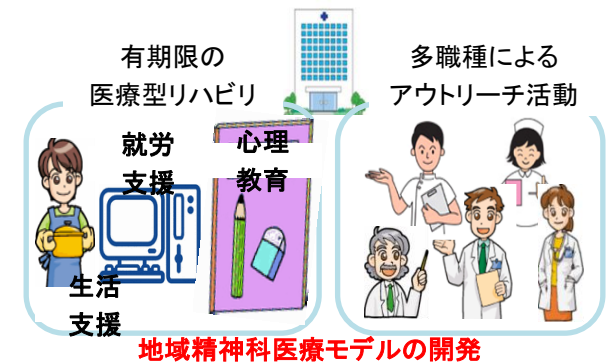
医師、心理士、
看護師、保健師、
PSW、薬剤師 他



専門疾病センター

病院・研究所といった組織の横断的な取り組みを通じ、高度・専門医療を提供し、併せて臨床分野と基礎研究分野が緊密に連携した臨床研究を推進する。

1. パーキンソン病・運動障害疾患センター
2. 筋疾患センター
3. 多発性硬化症センター
4. てんかんセンター
5. 地域精神科モデル医療センター



政策的医療の提供（医療観察法病棟）

- 医療観察法対象者への医療の提供（我が国最大 68床）
- 我が国唯一の身体合併症医療対応
- 全国26指定入院医療機関の牽引役
- 裁判所、検察庁、保護観察所との強力な連携

多職種チーム医療

- ・ 運営会議（毎月）
- ・ 担当多職種チーム会議（毎週）

身体合併症医療

- ・ 院内連携モデル
（総合内科・外科）
- ・ 多施設医療連携モデル
（身体科高度専門医療）

教育・研修機能

- ・ 研修・見学受け入れ（204件）
- ・ 新規設置施設支援
- ・ 各種人材養成活動

地域連携・退院促進

- ・ 地域連携会議（CPA）
（年間182回）
- ・ 外出外泊の実施
- ・ 通院処遇の準備

政策提言

厚生労働科学研究班 研究活動
（全国入院対象者、全数調査）

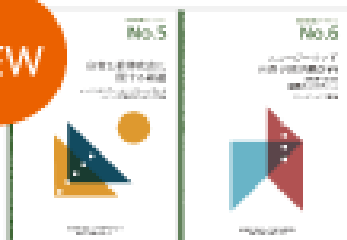


自殺予防総合対策センター

政府の総合的な対策を支援

自殺予防総合対策センター
ブックレット

NEW



情報発信

- ・ウェブサイト「いきる」
(アクセス月あたり5万件以上)
- ・中高年キャンペーン「のめば、のまれる」

のめば、のまれる

NEW



ネットワーク 民間支援

- ・相談窓口連携の手引き「いきるを支える」
- ・自殺対策ネットワーク協議会
- ・自殺対策研究協議会

調査研究

- ・心理学的剖検
- ・地域における自死遺族支援の促進
- ・一般診療科と精神科の連携による
 - ・うつ病患者の発見と支援
 - ・人口動態統計の分析
- ・自殺対策取組状況調査

研修

- ・心理職自殺予防研修
- ・自殺総合対策企画研修
- ・精神科医療従事者自殺予防研修
- ・自傷行為とパーソナリティ障害の
理解と対応研修

政策提言

- ・自殺・うつ病等対策PT報告への協力
- ・自殺対策推進のための関連学会等
と連携し、「大綱」改正へ提言



東日本大震災の被災地支援における自殺対策の枠組みの援用可能性を検証・発信



独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター
National Center of Neurology and Psychiatry (NCNP)

メディア カンファレンス



- (1) 幅広い層を対象としたメディアカンファレンスの定期開催(30～50人参加)
- (2) メディアの質問に中立的な立場から情報を提供し、より深く確かな報道を促進
- (3) メディアの関心やニーズを把握するためのアンケート調査を実施
→双方向的意見交換の場

【感想】

- ・自殺を学校で取り扱うことが、生涯のメンタルヘルスの基礎となるという考え方は頷けた。
- ・本日聞いた話をもとにして、国民の世論を喚起するような報道をしたいと思う。
- ・メディアセンターとしての取り組みに期待。

- 第1回(6月)「発達障害・知的障害と触法行為ーその理解と支援のあり方」
- 第2回(9月)「薬物療法をめぐって」
- 第3回(12月)「自殺予防について-若手研究者からのメッセージ」
「認知症の医療と地域ケア」
- 第4回(2月)「若者の自殺」